

農の架け橋



発行：鹿行農林事務所 経営・普及部門
(銚田地域農業改良普及センター)

TEL:0291(33)6193

FAX:0291(33)6725

新型コロナウイルスに負けないよう、体調管理を徹底しましょう！

令和3年度銚田地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催しました！

1月21日（金）、銚田合同庁舎において新型コロナ対策を徹底し、標記発表会を開催しました。当日は農業学園生や銚田市4Hクラブ員、助言者の方々などあわせて18名が参加しました。発表会では、プロジェクト活動発表として神栖市の木野本 青空さんが「ピーマンにおける追肥方法の違いが収量等に及ぼす影響」について、事例発表として銚田市4Hクラブの檜山 直紀さんが、クラブ員が共同で取り組んだ「カンショ栽培における肥料試験結果と直売活動」について発表を行いました。助言者から「今後も課題を見つけて経営改善に取り組んでほしい」との意見が出されたほか、参加者からも「栽培や販売をするうえで何を大切にしているか」などの質問が出され、活発なやりとりが行われました。



発表の様子



銚田地域全体でのトマト安定生産への取り組み

銚田地域は県内最大のトマト産地で、生産者の優れた技術と情熱で栽培されたおいしいトマトは消費者から高く評価されています。銚田地域のトマト栽培では、近年、タバココナジラムが媒介する黄化葉巻病による減収が問題となっており、園芸研究所と民間企業が共同で開発した簡易検出キットを用いた罹病株

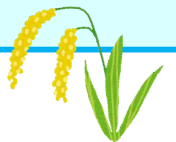


情報交換会の様子

の早期発見・抜き取りや、農薬のローテーション散布等の対策を行ってきました。また、各JAの部会内に組織されているトマト研究会や研究部が、黄化葉巻病対策として耐病性品種の試作・検討を行い、本年度から耐病性品種が作付けされています。

さらに、効果的に病害虫の発生を抑制するため、普及センター・JA茨城旭村・JAほこたが一堂に会し、黄化葉巻病の多発地域の情報や各JAの試作品種の情報等を共有する情報交換会を開催するなど、銚田地域全体でトマト安定生産に向けて取り組んでいます。

水稻育苗期の病害に注意しましょう！



これから水稻育苗の季節となりますが、気象条件などが整ってしまうと、思いがけない病害が発生することがあります。適切な管理で健苗育苗に努めましょう。



◁リソプス属菌による苗立枯病

白いカビが土表面に広がり、苗の生育が悪くなります。出芽期の高温多湿、特に32℃を超える高温では発生が助長されます。出芽期の管理温度を28～30℃とすることで発生を抑えることができます。

※出芽期の温度が30℃を超えるとみ枯細菌病(坪状に枯れて葉が容易に引き抜ける病気)の発生も助長されるため、28～30℃での出芽に努めましょう。

▷フザリウム属菌による苗立枯病▷

苗の地際に白いカビが発生し、土をほじくると籾付近に白色～淡紅色のカビの発生が見られます。出芽が揃った後10℃以下の低温にあたると発生が助長されますので、特に夜間温度が10℃以下とならないよう注意しましょう。

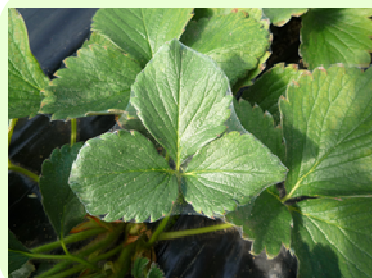
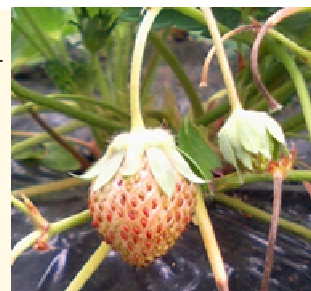




イチゴ栽培における注意すべき虫害について

アザミウマ類（主に「ヒラズハナアザミウマ」と「ミカンキイロアザミウマ」）

3月以降気温が上昇すると活動を始め、成虫や幼虫が花に集まり加害し、果実は光沢がなくなり茶褐色に変色します。果実や花に被害を確認する前から定期的に薬剤防除を行いましょ。体長は1.5mmと非常に小さく、成虫の体色は黄褐色～橙黄色、幼虫は黄褐色で見つけにくいので、青色粘着板によるモニタリングや、花の周りをルーペで観察し早期防除に努めてください。



ハダニ類（主に「ナミハダニ」と「カンザワハダニ」）

食害根（白いカスリ状または斑点症状）、生育不良、葉の黄化など、ハダニ類の発生が確認された場合、直ちに防除しましょ。

ハダニ類の発生を確認し、発生程度により、天敵ダニを追加放飼するか、発生が多い場合には薬剤防除に切り替えてください。

※薬剤散布前に余分な下葉を1～2枚欠くと薬液が葉裏にも付着しやすくなります。天敵ダニを使用している場合は、影響の少ない薬剤を選択してください。

育苗期～植付期のサツマイモ基腐病対策について

2月現在、銚田市・鹿嶋市・神栖市での本病の発生は確認されておりませんが、引き続き注意が必要です。感染拡大防止のために、以下の対策を行いましょ。

1) 「持ち込まない」対策

苗増殖はウイルスフリー苗を使用しましょ。種いもを使用する場合は、栽培履歴が把握できており、病害発生のないほ場のいもを使用しましょ。

2) 侵入に備えた対策

排水不良により発病が助長されますので、排水対策を徹底しましょ。ほ場ごとに、植え付けた苗の苗床・採苗日・苗の購入先の記録を忘れずに。

3) 薬剤による対策（令和4年2月9日現在）

～使用する前にラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期・回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください～



苗基部の黒変

	薬剤名	使用量/ 希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	分類 コード	使用方法
土壌消毒	バスアミド微粒剤	30kg/10a	植付 21 日 前まで	1 回	8F	本剤の所定量を均一に 散布して土壌と混和する
	ガスタード微粒剤					
種いも消毒	トップジン M 水和剤 (※)	200～500 倍	植付前	1 回	1	20～30 分間種いも又は 苗茎部浸漬
苗消毒	ベンレート水和剤	500～1,000 倍	植付前	1 回	1	30 分間苗基部浸漬
	ベンレート T 水和剤 20	200 倍			M03、1	30 分間さし苗基部浸漬

※トップジンM水和剤については、黒斑病での登録

写真出典：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C) 令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html

銚田市「農業法人 深作農園 有限会社」が日本農業賞を受賞されました！

深作勝己さん（銚田市）が代表を務める「農業法人 深作農園 有限会社」が第51回日本農業賞 個別経営の部で大賞を受賞されました。深作さんは、土作りにこだわった独自の農法を軸に持続可能な循環型農業とICTを活用したスマート農業の両立を目指しています。また、自社直売所運営や観光農園、スイーツの加工・販売、農家カフェなど6次産業化にも力を入れています。新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く中、VR（仮想現実）を活用したメロン狩り体験を行うなど新たな取り組みにも積極的です。これらの取り組みが評価され、今回受賞となりました。誠にありがとうございます。

